

小児成育歯科学実習

Training of Pediatric Dentistry for Growth and Development

キーワード

- ① 口腔統合医療学
- ② 小児歯科学
- ③ 頭蓋・顎・顔面の成長発育
- ④ 歯列・咬合の発育と異常
- ⑤ 歯列・咬合状態と口腔機能の評価

授業概要

小児期における心身の発育を理解し、小児の身体的特徴ならびに心理的特徴、生理的特徴について修得する。また、全身の成長過程における頭蓋顎顔面領域の形態に影響を及ぼす口腔機能の異常に関する診断と対応法を修得する。具体的には、実際の症例資料を題材として、指導教員とディスカッションを行いながら、正常な成長発育過程における顎・顔面の形態的ならびに機能的変化をもとにした適切な診断と健全な口腔機能を育成するための治療方針の決定、治療計画の立案を通じた小児歯科学の研究手法の修得による、専門知識の高度化を目的として開講する。

授業科目の学修目標

小児の成長過程における形態変化は環境要因、特に口腔機能の発達に大きく影響を受けるため、小児成育歯科学実習は早期の口腔機能の異常を正確に診断し、包括的な対応をとるため学問であり、実習を通じて必要な知識・態度・技能を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 小児成育歯科学的研究計画立案実習 12コマ
実習を通じて、成長発育の異常を発見する能力を育成すると同時に研究計画の立案の基本を教授する。
- ② 成長発育過程形態学的解析基礎実習 12コマ
小児期の成長発育に関する研究に必要な形態学的分析手法を教授する。
- ③ 小児医療面接・歯科の対応実習 12コマ
小児患者への対応法とサンプル採取ならびに資料作成手技を教授する。
- ④ 口腔機能解析実習 24コマ
小児期の摂食・嚥下・構音機能に関する筋機能データ解析の基本的手技を教授する。

実習担当教員 木本茂成 横山三菜 井上吉登 浅里仁 中村州臣 藤田茉衣子

教科書および参考書

小児歯学基礎・臨床実習第2版、医歯薬出版、前田隆秀他編集
Essential Clinical Oral Biology, Wiley Blackwell, Edited by Stephen Stephen

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

実習前に各症例に関する形態的ならびに機能的分析方法を指導教員に確認し、理論を熟知してから実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 問題点を発見し小児成育歯科学的研究計画の立案ができる。
- ② 成長発育過程における形態的解析の理論を理解し実践することができる。
- ③ 小児患者の心理発達に即した対応法を理解し資料作成を実践することができる。
- ④ 口腔機能の解析方法を理解し実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
20%	0%	40%	0%	0%	0%	40%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った実習の知識の理解度を判定する。1回20%
- ・レポートは、授業計画の4項目について課題を提出する。10%×4回=40%
- ・実技は、授業計画の4項目についてプロダクト達成度を判定する。10%×4回=40%

理想的な達成レベルの目安

小児成育歯科学実習の理想的な達成度は80%以上とする。